

## 2期続けて悪化となった中小企業の景況

平成25年1月21日

全国商工会連合会

全国商工会連合会（会長：石澤義文）は21日、平成24年10月－12月期中小企業景況調査（8,000企業対象、11月15日時点調査実施）の結果をとりまとめた。

平成24年10月－12月期の中小企業景況調査によると、全産業ベースのD I（景気動向指数・前年同期比）は売上額がマイナス31.9（前期比3.4ポイント低下）となった。採算（経常利益）はマイナス34.0（同2.2ポイント低下）、資金繰りはマイナス23.9（同2.2ポイント低下）だった。主要3D Iは2期連続してそろって低下、中小企業の景況は悪化する方向にある。

製造業、建設業、小売業、サービス業といった業種別に主要3D Iの動きを追うと、前期と同水準だった小売業の売上額D Iを除いて、前期水準を下回る結果となった。製造業でD Iの低下傾向が鮮明になり始めてきたことに加え、これまで改善傾向にあった建設業でも主要3D Iがそろって悪化した。もっとも、完成工事（請負工事）D Iの内訳の動きを見ると、完成工事が昨年より「増加」したとの回答も「減少」との回答も前期より少なくなった。採算（経常利益）D Iについても同様の結果で、「悪化」も減少していることから、建設業の業況が本格的に悪くなっているとは当期はまだ判断できない状況だ。

業種ごとに売上額D I（建設業は完成工事額D I）を見ると、製造業はマイナス27.1（前期比3.9ポイント低下）、建設業はマイナス13.1（同2.8ポイント低下）、小売業はマイナス44.2（前期比変わらず）、サービス業はマイナス33.5（同6.3ポイント低下）となった。D Iの水準は、当期は低下しなかったものの小売業が一番低い状況が続いている。また、悪化幅が大きかったサービス業は3期ぶりに全産業ベースの水準を下回る結果となった。

製造業のD Iの動きは業種別では差があるが、主要3D Iが前期と比べて改善したのは、「木材・木製品製造業」「パルプ・紙・紙加工品製造業」「印刷・同関連業」の3業種。中でも、「木材・木製品製造業」は3D Iがそろって2ケタの改善を示した。一方、3D Iがそろって悪化したのは7業種で、輸出関連の業種が比較的多い。「金属製品製造業」の3D Iは2ケタ悪化となった。「輸送用機械器具製造業」では売上（加工）額D Iが前期と比べて30.5ポイント低下と大きく落ち込んだ。

中小企業の景況は総じて見れば、平成24年4月－6月期をピークに低下しつつある。10月－12月期は国内需要が弱含む中で海外需要が減速したことなどから、悪化傾向が鮮明となった。経営上の問題点として「需要の停滞」を指摘する割合は業種によらず増えているうえ、先行きに対する不確実性も依然として高い。中小企業の業況には、ますます注視する必要がある。

（注）D I（景気動向指数）は各調査項目について、各調査項目について増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。 連絡先 企業環境整備課 堀内 TEL 03-6268-0085